

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも…

Vol.79

久しぶりの被災地



お城を中心に発展したまちを城下町、一方で有力な寺院や神社の門前に形成されたまちを門前町と習った覚えがあります。7月に炊き出しへ向かった輪島市門前町はまさに文字通り、曹洞宗大本山總持寺の門前を由来とするまちです。

これまでも、大きな災害があるとボランティアや視察として可能なぎり駆けつけてきましたが、今回の能登半島地震のように約半年も現地へ入れなかったことはなく、大変もどかしく感じていました。わずかな時間見てまわっただけで何がわかる、と言われかねませんが、いつか起こるであろう、南海トラフ地震や大雨、土砂災害の参考になればとの一心で現場の空気を吸っています。

さて、今回の炊き出しでは、避難所向けに約40人分の昼食の依頼があり、鳥羽市からの有志総勢11人で、企業十数社

から提供を受けた食材を託されて、輪島へ行きました。私に任されたのは、ドラム缶窯を持ち込んだのピザ焼きで、これまでイベントなどで1000枚以上焼いてきた私の定番です。



黙々とピザを焼く私

こんな暑い時に薪を焚べて迷惑がられないかと心配もしましたが、半年たつて少し遊びゴッコのあるものも喜んでもらえるのでは、という提案で私の出番となりました。

配膳テーブルにメニューを貼り出していました。鳥羽市長特製メニュー「ピザ」という掲示に「何コレッ」と聞かれるので、「私が焼きます。私市長です」と答えると、とても驚か

れました。

また、遠く離れた鳥羽から支援に来たことを涙ながらに感謝され、こちらも胸がいっぱいになりました。そして、「ピザなんて食べるの久しぶりよ」と語る女性の姿に、29年前のことを思い出しました。

それは、阪神淡路大震災で初めて炊き出しに行った時のことです。神戸市東灘区の小学校、発災1ヶ月後のことでした。私のボランティア元年です。その時は伊勢うどんを提供したのですが、私から器を受け取った女性は、うどんに鼻を近づけ、空を向いてしみじみと言いました。「久しぶり。ああ、おネギのいい香り」と。薬味のネギにこんな感想を言ってもらえるとは、忘れられないシーンです。

能登の復興はこれから時間がかかることが想定されます。このお二人の女性のエピソードから、特に食べることに限りませんが、その時々に応じた支援をしたいとあらためて思いました。



伊勢エビ汁の準備中

原爆の父



Vol.231

市民課人権・市民交流係
☎ 29 1126

今年3月、映画「オッペンハイマー」が日本で劇場公開されました。原子爆弾開発プロジェクトの責任者だった、ロバート・オッペンハイマーの半生を描いた作品です。

第二次世界大戦中、ナチス・ドイツが先んじて原子爆弾開発を行うことをおそれたアメリカ、イギリス、カナダは、原子爆弾開発製造のために科学者・技術者を総動員しました。この計画は「マンハッタン計画」と命名され、原子爆弾開発のため、「ニューメキシコ州ロスアラモスに研究所が創設されました。物理学者であるオッペンハイマーはこの研究所の所長に就任し、原子爆弾開発チームを率いて研究を行いました。1945年7月、開発された原子爆弾を用いて、世界初の

核実験が行われました。同年8月、ロスアラモス研究所で作られた原子爆弾が、広島と長崎に投下されています。オッペンハイマーは原子爆弾の開発に成功し、「原爆の父」として賞賛を浴びることになります。

第二次世界大戦が終わり冷戦時代に入ると、アメリカを中心とする陣営とソビエト連邦を中心とする陣営との間で対立が深まりました。核兵器開発競争が激しくなり、両陣営が原子爆弾を超える威力を持つ水素爆弾の開発を急ぐ中、水素爆弾開発に反対したオッペンハイマーに対してスパイ疑惑が持ち上がります。オッペンハイマーは国家機密に関与する資格を奪われ、公職を追放されることとなりました。政治家、科学者、技術者など、多くの人が原子爆弾に関わっていました。原子爆弾の開発から使用に至るまでの間、勝利や戦争終結のため、政治目的のため、科学研究のためなど、さまざまな思惑が交錯していたのです。

戦争や核兵器使用について、一人ひとりが向き合い考えていくことが、平和につながる一歩になるのではないのでしょうか。